

鯉 城

第71号

広島市中区国泰寺町1丁目2番49号
〒730-0042 広島国泰寺高等学校内

鯉城同窓会

電話(082)241-9777 FAX(082)248-7341

E-mail rijo@orion.ocn.ne.jp

URL http://www.rijo.gr.jp

題字は塩田宏司(洲鵬)氏



二木会で談笑する松井さん(左)と弟の末重さん(10月11日)



一中の卒業式を控えて友人と記念撮影。5年生の松井さん(右)。

二木会出席 30年の歩み

総会で会長表彰

同窓会の会員有志が毎月第二木曜の夜に集う二木会。常連メンバーのうち、95歳と最高齢であり、しかも広島県東部の府中市から30年以上も通い続ける松井義武さん(昭和16年卒)が、11月の総会で会長表彰された。

松井さんが二木会に出席し始めたのは会場が広島国際ホテル(現在はリーガロイヤルホテル広島)だった昭和60年前後。当時は同期生10人くらいが一つのテーブルを独占することも。しかし年数がたつにつれて人数が減り、今や松井さんだけが残った。

が午後7時という時期もあり、6時半からの二木会に顔だけ出して、すぐにバスセンターに急いだ。そうまでしても、級友や同窓生に会いたい一心だった。

自宅から広島市までバスを乗り継いで片道2時間弱。当初は帰りの便の発車時間の便の発車時間。出席し続ける理由について「あえて言えば一中魂、鯉城同窓会魂でしょうか。一度決めたらこつこつ頑張る質実剛健の気持ちですよ」と説明。「黙々と会の世話をしてくれる当番幹事の皆さんの姿にも、いつもその魂の片鱗を感じます」と付け加える。

府中市の95歳松井義武さん(昭和16年卒)

松井さんは男ばかり6人兄弟の長男。五男の末重文男さん(88。昭和23年卒、広島市南区)も、平成16年から二木会に出席するようになった。

今では二木会終了後、そのままホテルに泊まり、翌日は松井さんの妻である喜美恵さん(90)が府中市から合流。弟の末重さんを含めた3人で昼食をとにする「兄弟会」を開くのが定番となった。

戦時中、松井さんは海軍航空隊に入り、神風特攻隊員として訓練を重ね、多くの先輩を見送った。特攻死する日待つ毎日。一中時代を振り返っても、何人もの同級生が、当時の陸士、海兵に進み、戦死した。

戦後は農協に勤務した松井さん。広島県内各地に勤務する傍ら、地元の社会教育委員、人権擁護委員などを歴任。地域の世話役として貢献してきた。

5年前に書いた手記に掲載した自作の短歌と俳句作品を紹介する。「あの空の果てに散らんと決めていし生かされて磨ひとつめくりぬ」「永らえてなになしえしや法師蟬」。

二木会については「私の生きがいと言っても言いましょうか。体が続く限り出席するつもりです」と話している。

新役員の顔ぶれ

顧問	亀井郁夫(昭24年併) 八木忠士(昭33年)	田村鋭治(昭25年) 碓井法明(昭35年)
参 与	福岡駿吉(昭24年⑤) 木坂孝治(昭24年併) 奥田典子(昭33年) 伊藤暉(昭35年) 月村俊雄(昭39年定)	日山隆司(昭24年鯉1) 竹林 守(昭29年) 桑野恭彬(昭34年) 土井敏正(昭36年)
会 長	細川 匡(昭41年)	
副 会 長	金子俊介(昭41年) 大石一朗(昭43年) 森信秀樹(昭46年) 桂 秀昭(昭47年) 増本 智(昭47年) 昌子 均(昭48年) 反田哲顕(昭50年)	田丸健三(昭41年) 森野千恵(昭44年) 中山正幸(昭46年定) 戸田武弘(昭47年) 桑原佐智江(昭47年通) 渡部公磨(昭49年) 酒井文一(昭51年)
常 任 委 員 会		
総務委員会 母校振興兼務	委員長 榎本暢之(昭56年) 副委員長 山崎拓哉(昭62年)	
運 営 委 員 会	委員長 越智孝広(昭54年) 副委員長 和田啓治(昭58年)	
財 務 委 員 会	委員長 櫻井嘉尚(昭54年) 副委員長 窪川原康登(平2年)	
広 報 委 員 会	委員長 大石一朗(昭43年) 副委員長 山本訓子(昭39年) 田中敬子(昭59年)	小川伸夫(昭50年)
資料保存委員会	委員長 山口修司(昭46年) 副委員長 藤井寿美枝(昭48年)	安井千明(昭61年)
総務委員会 母校振興兼務	委員長 榎本暢之(昭56年) 副委員長 山崎拓哉(昭62年)	
会 員 委 員 会	委員長 三輪京子(昭55年) 副委員長 根石紀雄(昭55年)	林 雅弘(昭55年)
監 事	河野 隆(昭44年)	長野耕治(昭50年)
事 務 局	久保木敬子(昭42年) 高野 恵(平3年)	向井英俊(昭42年)
当 番 幹 事	平成7年卒 代表 窪田泰久 事務局長 丸吉浩二 平成8年卒 代表 横田英一郎 事務局長 真志田昌宏	

細川匡
会長

2期目こそ、全身全霊

細川会長決意新た

「高校時代はサッカーに明け暮れ、恥ずかしい程の劣等生だった私が、伝統ある鯉城同窓会会長の指名を受けるなんて：まるで出版されていない小説が、いきなりノーベル

文学賞にノミネートされたような気分です。(中略)
同窓会長を拝命して、何を為すべきか見当もつきませんが、鯉城同窓会員の皆様には、母校への矜持を持ち続けていただきたいと願っています。
高校生諸君には、あらゆる機会を通じて、先輩の皆様の知恵と経験を伝え、全力でサポートして参る所存です。
同窓会員の皆様とは、密接

同窓会長として初めて出席

*

した卒業式では、半世紀以上に前に私自身が卒業生として聴き勇気づけられた、間下恭次郎校長先生の言葉を紹介。
「人は誰も、生まれて生きて死んでいく。それを人は知っている。知っているから苦しみ励む。知っているから悩み喜ぶ。生きる力はここから湧き出る」
直後の入学式では、かつて劣等生ながらもサッカーに没頭した経験を話しました。
「私がサッカーを通じて学んだことは、チャンスをつかむのは才能ではなく、諦めず愚直

に継続し続けること。そして常に、「もう一步！」踏み込むことの重要さです」

*

体育祭などの学校行事や、一中慰霊祭に加え、毎月の二本会にも積極的に参加。多士済々の同窓生の講演と懇談に多くの刺激を受けています。
関西鯉城同窓会には今年の8月、やっと顔を出すことができましたが、東京鯉城同窓会の二水会には、1期目の任期満了の3日前にやっと顔を出すと言った始末です。
斯様な私に、2期目も任務を全うせよとのご指名を頂戴。

*

今年の夏、日本列島を襲った集中豪雨に台風や地震は、同窓生の皆様にも甚大な被害をもたらしたと推察し、心からお見舞い申し上げます。こうした中、7月の集中豪雨による在校生の窮状を訴えたところ、短期間のうちに望外の額の義援金が集まりました。国泰寺魂を目の当たりにするに及び、同窓会の果たす役割を再認識いたしております。斯くなる上は身に余る大役ながら、全身全霊でもう一期、懸命に務めて参る覚悟です。
会長(昭和41年卒) 細川 匡

母校振興へ 寄付拡大を

サポーター
制度も順調

同窓会では、7月の豪雨被害で被災した母校学生の支援のため、例年12月にお願するサポーター寄付金を8月下旬から始めさせていただいたところ、例年の2倍近い寄付が集まりました。関西など県外の方や、平成生まれの若い方まで実に幅広い方々からのご寄付を頂き、その用途について学校と協議を進めているところです。



森信秀樹
副会長

さて、2008年から始まった「ふるさと納税」制度は、個人住民税の一部を、納税者が選択する自治体に納税できる仕組みとなつて今日に至っています。

自治体間の過度の競争から、その返礼品の豪華さなどが報じられると一気にブームとなり、結果として大都市から地方へ税金の移動が進み、功罪はあるものの当初の目的を果たしています。

広島県では、2016年からふるさと納税制度を利用した「学びの変革推進寄付制度」が

県教育委員会を窓口として始まりました。集まった寄付金は①

学校図書の実用など教育全般、②学びの変革を先導的に進める

学校の設置運営支援、③県下の国公立私立学校を指定して、そ

の学校の学習環境の実用にあてるといふ3つから選べる寄付

(ふるさと納税)制度です。私は、これまでの給与の中から

毎月県・市民税を天引き徴収

頑張れ！豪雨被災の母校生徒

122人に見舞金計381万円

総額 381万円
寄付 122人
888

7月の西日本豪雨災害で被災した母校生徒に支援をーと、サポーター制度寄付金への協力を呼びかけたところ、888万4470円が集まりました。

映画「鯉のはなシアター」好評

カープファン魂 盛り込み作品化



平成3年卒
時川英之さん

映画監督、映像作家として活躍する時川英之さん（平成3年卒）が、広島東洋カープ

されていまして、その用途にはあまり関心がなかったのですが、母校を指定して寄付を始めてからは、県民税の一部を母校を指定して県教委に寄付すること、母校の動向に親しむと誇りを持つようになりました。

の創成期の秘話を盛り込んだ映画「鯉のはなシアター」を9月に発表した。12月8日からは東京など全国主要都市で公開される。

ストーリーは、夢破れて東京から広島に帰った奥崎愛美（矢作穂香）を中心に展開する。老舗映画館の閉館問題や謎の男（徳井義実）が語るカープの歴史が絡み合い、それらを取り巻く人間模様が描かれていく。この映画は、広島ホームテレ

残念ながら、寄付の見返りに豪華な返礼品はありませんが、この制度で本年支出した寄付は私の場合、翌年の住民税と所得税において、寄付額から2千円を除いた額が減税されています。つまりは来年払う税金を今

じが自社の人気番組を、吉本興業との共同製作でドラマ化。そのドラマを映画化した作品。

時川監督は「カープファンだけでなく、野球に興味のない人にも見てもらいたかった」と話し「コメディやミステリーの要素も盛り込んで、幅広く楽しめる作品にしたつもりです」と振り返る。

この作品は11月に広島市で開催された広島国際映画祭で、「ヒロシマ平和映画賞」を受賞した。

年早めに支払った感じです。（詳しくは「広島県 学びの変革推進寄付制度」でネット検索してホームページをご覧ください）もとより、従来のサポーター寄付にご協力いただける方はそのまま継続ください。より積極的かつ直接的に母校の支援をしたいとお考えの方はこの制度も併せて検討されてはいかがでしょう。うか？

もちろん、全国どこにお住まいの方もこの制度が利用できます。地元在住の私は、この制度を利用して結果としては県民税はすべて広島県に入りますので税金の流出はありません。

副会長（昭和46年卒）森信秀樹

同窓会事務局 久保木敬子

母校振興と同窓会運営に役立てるため、例年12月に実施すること、サポーター制度寄付金への協力を呼びかけ。今回は協力依頼文を8月に発送しましたが、例年を上回る総額になりました。結

浄財の振り分けを検討した結

世界に向けて チャレンジを 同窓会講演会



国泰寺高校の生徒たちに熱く語りかけるキャノンさん

米国の作曲家チャド・キャノンさん

鯉城同窓会講演会が6月19日、母校体育館で開かれた。講師は米国の若手作曲家チャド・キャノンさん(32)で、テーマは「チャレンジ!はばたこう世界へ」。自分が何を世界に提供できるのかの才能を見極め、目標に向かって熱心に挑戦し続けていく大切さを説いた。

キャノンさんは、国泰寺高OBで被爆者の森重昭さんが、捕虜となった米兵12人の被爆死を調査した記録映画「灯籠流し」の音楽を担当した。その縁で今回の講師に招かれた。在日米国大使館の支援するコンサートツアーの一環で来日。両親と同僚の作曲家たちと一緒に登壇した。

まず、出身地の米国ユタ州ソルトレイクシティを、「長野の次の冬季五輪の開催地」と紹介。また、キリスト教の一宗派であ

るモルモン教の拠点でもあり、19歳から2年間、ボランティア宣教師として九州に派遣された体験談を披露した。

なかなか習得できない日本語、全く触れたことのない日本文化…。戸惑いの中でも、とにかく日本語を身につけようとチャレンジの日々だった。「自分の心の中で決めたことをやり遂げることができた。それが帰国して、いい反応となった」。あきらめない姿勢こそが困難を乗り越えたとの自信につながったようだ。

大学は、父と兄が卒業したハーバード大学を志望した。選考は、米国各州に設けられた卒業生で構成するハーバードクラブの一員が面接官となり、優秀な人材を大学に推薦する仕組みだ。「学業や部活動の成績だけでは入学は難しい。自分が世界

に何を提供できるのかをアピールすることが決め手」と分析。そのため、在籍する高校に新しいピアノを購入するためチャリティコンサートを企画して、チケットを地域で熱心に売り歩いて念願をかなえたことを面接で訴え、認められたという。「皆さんも意義深いことを見つけて挑戦してください」と助言した。

そのハーバード大学に日本人の学生が少なく指摘。1学年1600人のうち、中国人は300人、韓国人は200人いたが、日本人はたった1人。「世界に出て行くかと思っている人が日本には少ないのではない

か」と受け止め、「やる気があれば何でもできる。希望があれば頑張つて受験してほしい」と呼び掛けた。

さらに、「皆さんには数学であり、スポーツであり、音楽であり、それぞれ才能がある。それをちゃんと見つけて強調し、世界を変えてください」と提唱。その模範になるとして、森重昭さんの被爆死した米兵の研究を取り上げ、「40年もかかったが、研究の情報が米国のオバマ前大統領の頭の中に入った瞬間、世界を変えた」と称賛。それをもたらししたのは、「やり遂げたい」という森さんの強い意志だった。

た」と述べた。

「皆さんも世界を変える可能性は高い」と主張。自らの才能を見極めて目標に突き進む勇氣、熱意を繰り返し求めた。

講演では、「灯籠流し」の音楽や自ら創作した交響曲を紹介。何を表現したのかなど旋律の持つ意味を説明しながら、「私たち一人ひとりには世界の問題を解決できる力を持っていると信じている」と、在校生の才能に期待を寄せていた。

講演会は従来、国泰寺高OBを招いていたが、今回は外部講師となった。

叙勲・特別表彰など総会で顕彰

各種の賞を受賞された同窓生の方々と団体を、11月17日の総会で顕彰した。(敬称略)

〈叙勲・褒章〉

(平成26年秋)

▽旭日双光章(保健衛生功労)

岡橋 洋 昭36年

(平成29年春)

▽瑞宝単光章(警察功労)

延永秀樹 昭39年

(平成29年秋)

▽藍綬褒章(更生保護功績)

中尾建三 昭35年

(平成30年春)

▽瑞宝双光章(鉄道業務功労)

仁田 茂 昭24年鯉

▽瑞宝双光章(行政相談功労)

岡崎和香子 昭40年

▽瑞宝双光章(警察功労)

友田康弘 昭40年

▽旭日中綬章(弁護士功労)

福原哲晃 昭41年

▽旭日小綬章(労働行政功労)

中野末人 昭43年定

(平成30年秋)

▽旭日小綬章(産業振興功労)

細川 匡 昭和41年

▽黄綬褒章(業務精励)(金融業)

横岡敬人 昭和46年

〈特別表彰・感謝状〉

〈表彰状〉

▽金子堅太郎賞受賞(日米草の根交流)

葉佐井博巳 昭24年⑤

▽廿日市市制施行30周年記念功労者表彰受章

赤木幹徳 昭24年⑤

〈感謝状〉

▽同窓会振興(同窓会活性化)

故吉田治平 昭16年

▽同窓会振興(同窓会活性化)

松井義武 昭16年

▽同窓会振興(同窓会活性化)

森下 弘 昭23年

趣味を通じて、同期のきずな

卒業後も趣味を楽しみながら、仲間同士のきずなを確かめ合う同期生たち。今年は昭和33年卒と36年卒の有志の皆さんが、それぞれの芸術作品を持ち寄って展示会を開いた。

「燦燦会」有終の美

昭和33年卒

昭和33年、国泰寺高校を卒業した我々は、昭和50年当時から「毎月」同窓会を行うほどの堅



作品に見入る来場者たち

い結束力を持っていました。古稀を前にして、誰からともなく「何かやらないか」との話を持ち上がり、話し合う中で、多くの者が、絵画・書・写真・工芸等いろいろな芸術的趣味

を持つていることがわかりました。

「美術部出身者はもちろん、プロとして活躍している者、定年後六十の手習いで始めた初心者たちが、各々の作品を持ち寄り、展示会でもやろうか」と仲間を募ったところ、10数名の賛同者が集まりました。

会の名は、33年卒に掛け、将来、サンサンと光り輝く会との意味を持たせ、「燦燦会」としました。

当初は、小規模なものでしたが、次第にメンバーも増加。この会が母校振興のお役に立てばと、恩師・同窓生・在校生を含め、幅広く出品していただくことになりました。

また、会場も広い「はつかいちさくらびあ美術ギャラリー」に移し、来場者も大きく増え、メンバーのモチベーションも上

がりました。

しかし、傘寿を前にして、メンバーの老化は、如何ともしがたく、創作意欲にも陰りが見え

作品多彩「みろく会」

昭和36年卒

今年で8回を迎えた「みろく会」作品展が、昭和36年卒同期会（みろく会、9月8日）に合



力作が並んだ会場

始め、区切りの良い今回の第10回（6月20日・24日）を以って解散することに致しました。

お蔭様で、この最終章の展示会は、大きな「さくらびあ美術ギャラリー」の全館を使用し、来場者は約700名にのぼり、大盛況のうちに有終の美を飾ることができました。

多くの来場者の皆様から、「もう少し続けたら…」とのありが

広島県民文化センターで開催されました。

展示は絵画（洋画、日本画、水彩画、水墨画、木版画）をはじめ、書、写真、陶芸等がズラリ。出品者、出品数とも年々右肩上がりで、昨年から展示会場を現在の会場に変更。今回は同期生ら300名近い来場者がありました。

昨年は「星は見ている」特設コーナーが予想以上の反響で、本の編纂に携わられた美術の広隆軍一先生のことを深く偲んだことでした。

今年には出品者17名の写真を卒業アルバムから抜き出し、まとめて展示。そのおかげか、多く

たいお言葉をいただきましたので、今後、なんらかの形で、作品をご覧いただく機会が持てればと存じます。

10年間、多くの皆様にご鑑賞いただき、今は、燦燦会メンバー一同、感謝の気持ちでいっぱいです。

本当に長い間、暖かいご支援、ありがとうございました。

昭和33年卒 道上孝典

の人々が自分たちの高校時代を懐かしく口にする楽しいコーナーになりました。

年々、気持ちとは裏腹に体が動かなくなってきましたが3年先輩の「燦燦会作品展」を見習い、「10回展までやりたいね」と話し合っています。

今年、広島は豪雨災害が続き、出品できなくなった仲間もいた半面、遠く東京、大阪在住の同期生からのうれしい応募もありました。

「このつながりを大切にせにゃいけんね」。見舞金を集めながら、展示会の準備をしつかりすすめてくれた栗栖雪子さんの言葉です。

来年は9月18日から21日まで4日間。既に県民文化センターを予約しています。

昭和36年卒 荒木和雄

浅野家入城 400 年控え 盛大に修国戦プレ大会



綱引きなど多彩な種目で熱戦を繰り広げた

来年、平成31年は浅野家が広島藩の藩主として入城してから400年に当たります。それを記念し、平成30年6月21日、広島藩に繋がるの深い本校と修道

高等学校の2校で、芸州頂上決戦という名の下、来年からの本戦に先駆け、「修国戦プレ大会」を行いました。

修道高校は、藩校の流れをく

む私立の伝統校で、1725(享保10)年広島藩5代藩主浅野吉長が藩校として「講学所」を創始したことが起源となっています。

本校は、浅野家菩提寺である「国泰寺」の名前を冠する県立の伝統校で、前身である広島尋常中学校が、浅野家菩提寺「国泰寺」のあった国泰寺村(現在の国泰寺町)に移転し、昭和24年(1949年)に広島国泰寺高校となりました。

この大会は、浅野家に繋がるの深いこの伝統校2校が、スポーツを通して交流することで広島次の100年を両校で支えていくという気概を確認し合うことを目的としたものです。

今年のプレ大会では、競技前

に、両校で応援合戦をした後、バスケットボール・バトミントン・卓球・テニス・サッカー・バレー・剣道・ソフトテニス・野球・リレー・綱引きが実施され、それぞれの種目で両校のプライドをかけた熱い戦いが繰り広げられました。その結果、今年のプレ大会は種目合計で引き分けとなり、決着は来年以降に持ち越しとなりました。

それぞれの学校が、先輩たちの築いた歴史や伝統を振り返り、自分たちが誇りを持って後輩たちに受け継いでいこうという気概を持ったための非常によい機会となりました。来年から、いよいよ本戦が始まります。

国泰寺高校 主幹教諭 住田 稔

「4月に就任ご協力を」 有為の人材育成めざす

母 校 の 佐 藤 校 長



本年4月に、広島国泰寺高等学校校長に就任致しました佐藤隆吉でございます。どうぞよろしくお願い致します。

歴史に裏打ちされた重厚で気品ある本校の伝統ある雰囲気

今後永久に失うことがないよう、校訓である「質実剛健」「礼節気品」「自治協同」を踏まえ、「旧制広島一中以来の人間教育の伝統を受け継ぎ、社会の至宝となるべき有為の人材を育成す

る。」をミッションとしております。

このミッションを達成するため、教養の獲得を第一に掲げ、「何事にも疑いの目を持ち、自ら追究すること」、進学や就職

に必要な教科のみを勉強するのではなく、芸術など情操教育も含め、「一見無駄と思われること」にも一生懸命取り組むこと、「獲得した知識を社会に還元すること」を生徒に課し、教職員一同人材育成に取り組んでいるところでございます。

同窓会の皆様方には、こうした本校の方針を御理解いただき、今後とも御協力をよろしくお願い申し上げます。

国泰寺高校校長 佐藤隆吉

鯉城関西同窓会総会

3月10日(日)

開催 11:00

大阪新阪急ホテル

中 2019 年度
総 会

日 時 11月16日(土) 17:00

場 所 リーガロイヤルホテル広島

当番幹事 平成8年卒業生

鯉城東京同窓会総会

5月8日(水)

開催 18:30

(財)水交会 東郷記念館

ああ、わが伝統の柔道部

休部状態既に8年 復活の日をOB心待ち



歴史をはるかにさかのぼれば、こんなに大所帯の時代も

この写真——。明治34年に、寒稽古を終えた柔道部を本校講堂前で撮影したものといえられています。みんな逞しくいい表情をしています。

その柔道部も、現在では平成22年卒の部員を最後として、長い間休部状態となっています。

この間、入部希望者がいなかったわけはありませんでしたが、諸般の事情で部の再開はかなわなかったと聞いています。柔道場はいつしかレスリン

グ場に姿を変え、本校がレスリングの強豪校として名を馳せたことは大変喜ばしく思います。一方で明治時代から続いた部が姿を消してしまったのは、何とも勿体ない気も致します。

柔道部のOB会は「鯉柔会」と名乗り、かつては現役部員への支援活動に取り組んできました。対抗戦の主催や合宿での指導・差入れ、昇段者への黒帯贈呈などです。私も現役部員だった頃、お世話になった一人です。

その鯉柔会も、現在では年1回の総会懇親会とゴルフコンペを開催するのみとなりましたが、今年も10月27日に、芥川甫会長（昭和36年卒）のもと14名の会員が集って総会懇親会を開催しました。新規の入会者がいないため、当然のことながら会員の平均年齢は上昇する一方



今年10月の鯉柔会の集い

で、参加会員数も年々減少しています。（今年は特に少なかった・）

学校を取り巻く環境変化で部活動の維持が困難な事情もあるかと思いますが、会員一同、いつの日か柔道部が復活する日を夢に見つつ、大いに旧交を温めあい、1年後の再会を誓って盛會裏の内に終了しました。

鯉柔会会員（昭和61年卒）

安井千明

平成29年度決算報告（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

I 一般会計の部

（単位：円）

収 入 の 部		支 出 の 部			
前年度繰越金	9,717,214	会報製作費	2,556,887	母校振興費	748,530
会費等	3,044,976	事業費	675,411	慰霊碑献花料	60,120
入会金	2,793,000	HP 管理会員名簿管理費	177,123	慶弔費	1,542
終身会費	251,976	二木会助成費	900,000	事務費	1,620,000
寄附金	3,062,776	消耗品費	245,034	光熱・水料費	104,638
サポーター制度寄附金	2,732,776	印刷費	23,760	会館管理費	122,592
寄附金	330,000	通信運搬費	334,321	手数料	2,994
雑収入	321,701	会議費	303,139	雑支出	149,440
電話使用料、利息等	321,701	顕彰費	242,352	次年度繰越金	7,878,784
収入計	16,146,667	支出計	16,146,667		

II 基金

1 鯉城同窓会基金

（単位：円）

前年度繰越金	11,079,757
次年度繰越金	11,079,757

2 教育振興基金

（単位：円）

前年度繰越金	16,500,000
次年度繰越金	16,500,000

う総会参加者



30年度鯉城同窓会総会



「鯉城の誇り」を語る窪田代表幹事



恩師・藤井先生を囲んでパチリ

世代へ継承

平成30年度鯉城同窓会総会・懇親会が皆様方のご協力により、無事に終えることができ、当番幹事一同心から御礼申し上げます。

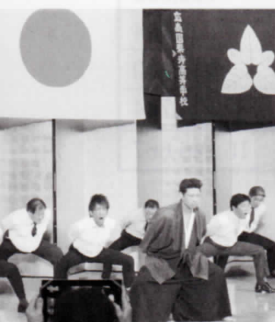
昨年までの参加する側として見ていた風景は、当番幹事として実際に動いていく立場から見る視点へと変わり、見える景色はかなり違うものなのだなあと思いました。

心の持ち様は、当然これまでとは違いますので、緊張感を持って臨んだことと、絶えず、状況を考えて行動していかねばならないことの大変さを身にしみて感じました。

また、諸々の準備の中で、あれもしなければならぬ、これもまだ出ていないと焦るのですが、時間は無常過ぎていくばかりで、本番ギリギリまで不安な空気が私達を覆って



平成最後の総会も宴たけなわに



いが入る応援団



晴れやか…叙勲・特別表彰のみなさん



映像作家・時川英之さんを囲んで…

声高らかに「鯉城の夕」を歌



同窓会の果たす役割を訴える細川会長



「元気でーす」。42 年卒のみなさん



総会に花を添えたチアガール

鯉城魂 次世



初々しい平成 30 年卒の新入会員

ました。
しかし、いざ当日を迎え、多くの同級生が集まる中で、不安という荷物を共に背負ってくれることに頼もしさを感じ、同期の団結という他に変え難い力が、総会成功の為の推進力になったのかなと思います。

今、改めて強く思うことは、同窓会とは自分達がいつまでも成長していくことができる場であるということと、「鯉城同窓生」というだけで、見ず知らずの人同士が一瞬でつながる魔法のような言葉であるということです。

先輩方がこれまで長年積み上げてこられた鯉城の伝統の一部となれたことを誇りに思いながら、この素晴らしい経験を次の代へと引き継いで参ります。ありがとうございます。

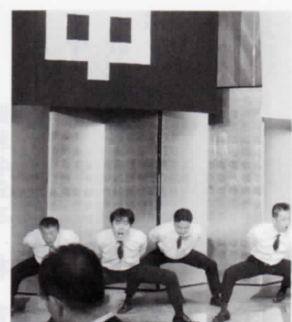
平成7年卒当番幹事
代表 窪田 泰久



「元気じゃったかいのー」。41 年卒のみなさん



今年の乾杯は43年卒のみなさん



「オース」。気合

私の近況

母校への思い
短歌に込める

昭和24年⑤卒 福岡駿吉

(編集部注：母校支援と同窓会活動の活性化に向けて、平成27年にスタートした「サポーター制度」。制度発足に尽力した福岡さんが、今の心境を短歌5首に託した)

創始四年サポーター制度は根付いたか八十六翁気がかりなこと
老耄のサポーター我らここにあり鯉城同窓会は不滅ぞ

サポーター制度支える同窓の心意気てふ言葉想起す

老壮青皆な同じサポーターただ同窓会の安泰めざす

サポーター制度を歌に詠もうなど老耄にしてよくぞ気付けり

(広島市西区庚午北)

昨年から3度の
エイジシュート

昭和24年⑤卒 西上 豊

9月の二木会で事務局長さんから「聞けば、エイジシュートを記録されたようですが、ぜひ

そのあたりを寄稿願いたい」と。それはそれとして、ゴルフ歴について顧みることにした次第。

昭和35年からはじめてクラブを握った。40年頃から急速にブームとなり、支店(銀行)では取引先中心のコンペが例月展開され、プライベートも盛況を極めるところとなった。

本部においてもゴルフ部長を引受けることに。昭和48年北九州支店長となり、名門門司CCに所属し、大企業による取引銀行コンペなどかなりの頻度であった。

その後2年の本部勤務を経て名古屋支店長となり、名古屋CC(和合)のメンバーとして、公私に涉りラウンドを重ねたものである。(もちろんきびしい

仕事は十分こなしていたこと)平成2年NTTデータの関連会社の社長に転向、ここでも10年弱そこそこのラウンド回数であった。フリーの身となつては、一中同期のクラブ(有終会)で400回(70代半ばまで)を数えた。

今では宮島CCの年寄クラブ(10年来会長)、錦峯GC(100

までやろう会)、銀行のOB会(もちろん最高齢)で頑張っている。

満87歳米寿を迎え、昨年来3度のエイジシュートを記録したが、何もしばれることではなく、年齢をとった証に他ならない。終生我流ゴルフの成果として自認しているところ。

(広島市佐伯区五日市)

終戦後の母校を
思い起こし感慨

昭和24年鯉卒 仁田 茂

卒業以来、70年を経ようかという時期を迎えました。当時を想起いたしますと、まことに感慨ひとしおのものがあります。

終戦間もないころの校舎は、急造の木造平屋建て。窓ガラスが破損しても補修はままならない時代、冬季には暖房設備もなく、生徒はオーバー、襟巻着用のまま受講する状態でした。先生方も大変な苦労だったことでしょう。

数々のエピソードが、感謝の気持ちに伴って、涙とともによみがえります。

当時、既に生徒会組織が認められており、時の金子貢生徒会長が「広島大学への夜間部設置運動」に取り組み中、広島県出身の池田勇人大蔵大臣に直接陳情して、その途中経過をわれわれに報告したことなど、次々に脳裏に浮かんできます。

その後、わが国は国民の努力で今日の経済復興・発展を実現しました。喜ばしい限りです。後に続く同窓の皆さん、今後とも社会のため、国の発展のために日々ご尽力下さいますよう祈念しています。

(広島県大竹市)

浅野公4百年
行事控え多忙

昭和35年卒 浅野和同

年齢77歳・卒業して58年・この道54年(広島市の饒津神社宮司・いまだ勤続中)。

そろそろ引退したいのではあります。それが出来ません。何故なら来年は毛利、福島の後、浅野長晟が広島入城して400年に当たるからです。この入城400年の記念行事を行うべ

く、現在計画を進行中です。

各流派による奉祝茶会、神能、流籠馬(歩射)のほか、能衣装収納のための収蔵庫の建設もあります。この能衣装は浅野家別邸・泉邸(現在の縮景園)に保管されていて、後に饒津神社へ寄贈されたものです。

この能面、能衣装は原爆により被災し、そのうちの32点が平成30年に広島市指定重要文化財とされました。原爆により灰燼に帰した饒津神社の戦後復興は、これにより成し遂げられました。実に73年を要したことになります。

来年は浅野長晟入城400年に関する諸行事が、饒津神社、県、市の各所で多彩に開催されます。ぜひご参加ください。

(広島市東区三葉の里)

吹奏楽部のOBで
バンド活動楽しむ

昭和41年卒 林 哲夫

夢中になることをやっています！

吹奏楽部卒業生によるビッグバンドを、5年ほど前に立ち上

げました。バンド名は「国泰寺ビッグサウンズ」と言います。ジャズ・ラテン・ポップスなどを手がけています。月に2回の練習をして、毎年6月の第一日曜日に定期演奏会をしています。

あまり上手ではありませんが、そこで、いい感じで聴けます。きつと楽しいと思います。多数おいでいただければ幸いです。

課題もあります。平均年齢が高いということです。広島市および広島市近郊にいらっしゃる若い方、どうぞ練習に参加して一緒に音楽をつくってみませんか。

吹奏楽部卒業生にかぎらず、卒業生から幅広い人材を求めています。

最後にもう一つ。カラオケも流川・薬研堀あたりで熱心に練習しています。音楽はいいですね。

(広島市佐伯区美鈴が丘)

地震に耐えた 北国の鯉城魂

昭和51年卒 吉近利枝

9月6日、北海道胆振東部地震では、同窓会の皆様にご心配をいただきました、ありがとうございます。

ます。

私の住む道東の帯広市では、ブラックアウト(北海道全域停電)の被害は多少あったものの、復旧が早く助かりました。道央の札幌北区にあるステッキ・シヤブシヤブのお店「プロカン

一中愛した父が 年初95歳で永眠

昭和55年卒 吉田宣治

広島一中の卒業生(昭和16年卒)である父(治平)が、今年の1月に95歳で永眠しました。魚釣りと子供が大好きな、とても優しい父親でした。

一中を卒業後、中央大学に進み、終戦の年に中国新聞に入社。夕刊ひろしまのデスクとして働くかたわら労働組合を結成し、中国新聞を辞めたあとは、全日治労と言う失業対策事業の登録者(その半数以上は被爆者だったそうです)からなる組合の委員長に就くと共に、市議会議員を4期務めました。

母親と妹たちを原爆で亡くした父にとって、被爆者や高齢者の生活を何とか守りたいとの気持ちで、40年以上にわたって労働組合の最前線で活動してきた父のモチベーションだったと思

ト(平成7年卒・白石孝信君経営)は、ガラスの大半が壊れ、後片付けが大変だったようですが、8日から節電営業したとか。札幌厚別区のお好み焼き店「しずる」(昭和61年卒・上向昇君経営)も大きな被害なく、食



ありし日の吉田治平さん(左)と筆者

います。

同窓会関係では、昭和16年卒の同期会であるデッサン会の世話役として、二木会にもよく参加していました。私の同級生や野球部の後輩たちと会話したことも、楽しそうに話してくれたことが思い出されます。

最後に、父のことを会報に掲載してどうかと連絡頂いた、同窓会事務局の皆さまに感謝致します。

(東京都稲城市)

材の入手が困難な状況下でも「在庫が尽きるまで営業する」と頑張っていました。

今更ながら、平穏無事な生活がいかに幸せかと、身に染みる思いです。今年は、全国で自然災害が多く、同窓生の皆様の無事を祈るばかりです。

そして、私は「質実剛健」をモットーに、今秋「十勝ごさんこ女子会」(北海道和種馬と共に社会貢献する馬好き女子達のを立ち上げ、つましく・強く・たくましく、厳しい北国の冬を乗り切ります。

(北海道帯広市)

今井政之先生の 文化勲章を喜ぶ

昭和58年卒 山本芳嗣

私は株式会社福屋(広島市の百貨店福屋)の美術部に勤務しております。いつも会報を楽しく拝見させていただいております。

このたび鯉城関西同窓会顧問の大津巧先輩、広報委員会の山本訓子先輩とのご縁で近況報告の機会をいただきました。両先輩とは平成29年に福屋で開催いたしました「文化功労者今井政之の藝術と今井家三代展」で初めてお目にかかりました。

今井先生は京都の工房と広島

県竹原市の窯で作陶されている日本陶芸界の第一人者でいらっ

しゃいます。関西の広島県人会で今井先生と大津先輩は親交があられ、そのご縁で展覧会には両先輩をはじめ多くの鯉城同窓会の皆様にお越しいただき、大

盛会のうちに終えることが出来ました。先輩方々のお力添えに厚く感謝いたしております。

そしてこのたび今井先生は榮えある文化勲章をご受章されました。ご受章の記念展もお願いしておりますのでその節は皆様のお力添えのほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

(広島県東広島市西条朝日町)

思いがけない転職 今やホテル支配人

平成4年卒 田村(平柳)綾子

3年前の今時期、当番幹事として鯉城同窓会館によく通っていたのを、懐かしく思います。

あれから3年...その間私には転職という大きな出来事がありました。東横イン広島駅新幹線口店の支配人になりました!(ホテル業界全くの未経験の私ですけど)日本一女性が働きたくなる職場を目指しましょう! 帰りたくなるホテルは女がつく

りましょう！人間味を採用します！と打ち出している通り、多くの女性支配人が活躍されています。

私も本来の人好き&話好き&世話好きの性格を生かせる職場なので、思いつきり楽しみながら仕事しています。

困難な事、気難しいお客様への対応もスタッフ一丸となり乗り越えていけるので毎日が充実しております。カープの躍進もホテルには追い風となり、試合の日は満室続きとなつていきます。1年中カープの試合があったらいいなあと思う毎日です。

(広島市南区翠)

やりがい感じた 応援演舞の活動

平成6年卒 石野敬士

高校生当時、応援団長をやっていました。

そして、昨年1年間、二木会や総会で応援演舞を団長としてやらせていただきました。現役高校生の時と同じように、応援団の先輩たちが守ってきたことがここに息づいていると思った

ことを、今でも覚えています。

しかし、20数年ぶりのことでしたので、当初は色々戸惑いがありました。そんな中、学生当時から知る1・2学年の先輩方はもちろん、同窓会で初めてお会いした先輩方にも助けられ、

指導してもらい、楽しく応援団をできました。

そして、会場の皆様も手拍子などして頂き、鯉城の夕を一緒に歌って頂けるので、こちらも気分が高揚して、とてもやりがいを感じながら演舞することが

企画展「星は見ている…」 反響呼び年内終了

原爆死没者追悼平和祈念館



「星は見ている…」の手記を紹介する映像に見入る入館者

昭和48年卒 叶 真幹

私が館長を務めている国立広島原爆死没者追悼平和祈念館の企画展「星は見えている 全滅した広島一中一年生・父母の手記集」が1年間の展示を終え12月末で終了します。

この展示にあたっては、鯉城

できました。

応援団に限ったことではありませんが、学生時代、同じことに打ち込んだことで、20年・30年・それ以上の時が過ぎても、ある瞬間、一瞬でその当時に戻れる。最高の喜びです。

(広島市安佐南区安東)

在やこの本が広島一中の父母の手記集だということは知識として持っていたものの、実は読んではいませんでした。2年前の年末に次の企画展のテーマの参考にと、近所の古書市をのぞいてふと手にしたのが本書でした。読み始めると涙が止まらず、一気に読み終え、ぜひ次の年の企画展のテーマにしようかと決断したので。

体が焼ける」に登場する堀弘明さんの弟司郎さんの「亡くなった父も喜んでいと思う」と語られた言葉が印象に残りました。その他にも様々な反響がありました。それがすべてを紹介することができず残念ですが、様々な場面で同窓会の方々のご支援ご協力がありました。本当にお世話になりました。ありがとうございます。

追悼祈念館の企画展としては、これまでにない大きな反響がありました。開始から間もない1月にニューヨークで演劇活動をしている曽我潤心さんが里帰りしたときこの企画展を見て、ぜひ「星は見えている」の朗読をやりたいたいの熱い申し出があり、この夏、ニューヨーク、広島、東京で朗読公演が実現しました。公演を聞いた「熱い、

今思うことは、自分は本当に応援団、そして国泰寺高校が好きだということです。これから同窓会、そして国泰寺高校を応援していきます。

核兵器の廃絶に向け被爆者の声を伝えていく活動に引き続き取り組んでまいりますので、皆様のご協力をお願い申し上げます。

(広島市西区横川新町)

私の近況

GANBARISM

同期会だより

少数精鋭で 楽しく談笑

昭25年卒

2018年5月4日、国泰寺高校1期生東京在住者の同窓会を開きました。6人集まり、3時間半。楽しくしゃべりあいました。1人(女性)は広島からの参加です。子どもが東京に住んでいて、子どもの家に泊まって同窓会参加というわけ

〈関さん追記〉

国泰寺高校が創立されたのは昭和24年。学制改革で、それまでの公立校を地域、総合性、男女共学の全く新しい高校にするという、革命的な新編成だった。6校の生徒の混合部隊、教師も生徒も初めてのことでばかりで戸惑う中、3年生(1期生)は、素晴らしい高校を作り上げようと奮闘した。だから同志的感覚で非常に仲が良い。

広島では早くから同窓会が始まっていたが、2009年東京在住者の中で「広島まではなかなか行けない。東京でやろう」という話が出、第1回会合を開

す。こんな参加形態、昔はちよつと考えられないことでした。

東京在住者は今、10人、体の調子が悪く外出は無理という方が3人おられますので、大変よい出席率だと思います。それでも、昨年元気だったのに、今年とは体調が悪くなりという方が毎年出て、昨年より出席は1人減りました。

来年元気がどうか誰も断言で

いた。

2012年本体が高齢化のため幕を閉じたが、東京はそのままと続け、今年めでたく10回を迎えた。出席した6人は5校の旧制中、女学校の出身。実質10カ月の付き合いでこれだけ仲が良いのも、不思議なことだと思

う。原爆、その後の廃墟で苦しみ、

新しい教育に、この高校を自分たちの手で素晴らしい学び舎にしようとする、同志的思いと懐かしさが、こんなに長く同窓会を続けさせているのだと思う。鬼籍に入った方が増えた1期生だが、東京同窓会はまだまだ頑張ります。

きないのですが、頑張つて、88歳(再来年)いや、90歳まで開きたいなど言いあっています。

(関千枝子)

花見の季節 宮島を堪能

昭40年卒

昭和40年卒同期会を毎年開催している。今年は4月に広島・



会場となった宮島の旅館岩惣の表玄関

宮島で開催。一昨年は江戸城探訪、昨年は京都祇園の散策。広島では風情のある「安芸の宮島」で桜を愛でることが一つと、広島ならではの先輩同窓生昭和24年卒児玉光雄氏による「放射能と闘う至近距離被爆者・命の記

録」と題した講演会を実施しました。

会場は天皇陛下もお泊まりになられた老舗宿であり、一昨年のG7外相会議でも会場となった「旅館 岩惣」で講演及び会食と、宮島の美しさと歴史を満喫しました。

児玉光雄氏の講演では「放射能の影響による遺伝子の変形」に関する内容であり、被爆2世も多い我々の同期生も知らないことが多くあり、改めて核兵器の脅威を考える場となりました。

講演が終わり、いよいよ昼食！岩惣の昼食は和風のもので、ジビエ等宮島を代表する食べ物がふんだんに盛り込まれた贅を尽くしたものでした。毎年会える人や、数年に1回の方、はたまた卒業後初めて会えた方など様々な様相でしたが、時間が経つごとにみんなすーと高校時代に戻り、ワイワイガヤガヤ！大変な盛り上がりで、楽しい会になりました。

出席者全員の近況報告、鯉城同窓会総会及び二木会への出席の呼び掛けや、来年度の四十会の開催予定について説明し、鯉城関西同窓会の山根幹事の一本締めで閉会しました。

(志治正昭)

古希と卒業50年 123人盛大に集う

昭43年卒

平成30年5月13日、われわれ昭和43年卒業の同期会は、古希と卒業50周年を記念して、リーガロイヤルホテル広島で同期会を開きました。60歳の還暦の会以来の集まりで、123名が出席しました。

高校卒業以来、初めて参加する者もあり、下村純一代表幹事を中心にした念入りの準備のおかげで、豪華な料理、美酒で大いに盛り上がりました。何と言つても、一番のごちそうはお



おしゃべりが弾んだ4つて3ん会の集い

互いの元気な姿とおしゃべり。次の会も元気に迎えられるようエールを交わし、二次会へ散開したのでした。

わが同期は、平成3年の当番幹事の時に、同期会を「4つて3ん会(よってみんない)」と

名付け、以来10クラスで幹事持ち回りの会を開催したり、有志による4カ月ごとのゴルフの会を行っています。

5月の同期会の後、今年は11月の鯉城同窓会総会・懇親会で、乾杯の音頭をとることもあり、中村憲彰君の経営するパブで、その前段階の打ち合わせをしました。例年以上に、同期の仲間と顔を合わせる回数が増えた次第です。

(芳野秀聖)

還暦を祝い 厄除け祈願

昭52年卒

「ゾクゾク」と懐かしい顔がやってきます。平成30年8月12日(日)、リーガロイヤルホテル広島において、還暦を機に昭和52年卒の「還暦同期会」を、来賓に吉浦・山成両先生をお迎えし、同期生149名が集い開催しました。

還暦は、最初の長寿のお祝いですが、体力や健康、家庭や社会的な環境など、それぞれに転機を迎える時期で厄年にもあたることから、開宴にあたり、昭和49年卒の先輩である邇保姫神社の渡部公磨宮司にお越しいただき厄除け祈願を執り行っていたべくともな邇保姫神社獅子

舞連中による獅子舞を披露してもらいスタートです。開宴のあいさつに続き、恩師の方々のス



獅子舞も登場して盛り上がった

ピーチ、卒業後42年間それぞれが年を積み重ねた懐かしい仲間たちとの語らい、最後は、当時の応援団長、副団長のリードによる「鯉城の夕」と、あつという間の2時間30分でした。

卒業アルバムの写真は色褪せてしまいましたが、決して色褪せない同期生の輝く笑顔がそこにはあり、我々52年卒の色が見えたような気がします。

(白雲克宏)

五輪年に定番の フォークダンス

昭54年卒

私たちは、4年に一度のオリンピックピックイヤーに、同期会を開催しています。今までに7回開催しました。初期のころは、み

んなで景品を持ち寄り、ビンゴをやってみたり、津軽三味線や弦楽五重奏の演奏者を招いて音楽鑑賞の時間を設けたりしました。

しかし、近年では「アトラクションより、久しぶりに会った友人ともっと語り合いたい」との声があり、前回の2016年同期会では、何も企画しませんでした。それでも、私たち54年会にはどうしても外せない企画



ういういしい高校生に戻った気分で

があります。

「あの素晴らしい愛をもう一度」と「卒業写真」の2曲の合唱と、高校の体育祭でおなじみのフォークダンス「オクラホマミキサー」を踊ることです。みんな高校生に戻り、少しはにかんだ様子で踊るのは、とても楽しいようです。今回はやめようという声は一度もあがったこと

がないのですから間違いないでしょう。

今回は東京オリンピックの年で、私たちが還暦になる年です。今までよりたくさん同期

遺族ら3百人参列 今年も一中慰霊祭

旧制広島一中の原爆死没者慰霊祭が、7月22日、母校正門横の慰霊碑前でしめやかに営まれた。遺族や在校生約300人が参列。犠牲になった当時の生徒や教職員計369人をしのび、平和への誓いを新たにしたい。最初に母校の佐藤隆吉校長が「親に孝養も尽くせないまま、



しめやかに一中慰霊祭

命を奪われた若者の無念さを思う」と追悼の辞。同窓会遺族会担当参与の福岡駿吉さんは「第

生に参加してもらい、盛大に開催できればと思っています。もちろんフォークダンスもやりま

(越智孝広)

2学年だった私たちも、すでに86歳を越えました」と、被爆から73年の歳月を振り返り「被爆体験を持つ私たちが、平和社会をつくる先駆けにならないければ」と結んだ。

続いて在校生を代表して、2年の榎平詩乃さんが「73年前に流れた血や涙を過去のものにせず、当時の実相を理解し語り続けたい」と決意を述べた。参列者は慰霊碑に献花し、頭を下げて、手を合わせていた。

また、今年も母校PTAを母体にしたコーラスグループ「鯉城ステアコール」が歌声参加。「ひろしま平和の歌」「鯉城の夕」などの美しい歌声が、会場に響き渡った。

今回の慰霊祭でも、事前の準備段階から、母校の生徒が会場設営などに献身的に活躍。当日も式典に参列し、献花を通して、亡き大先輩たちに、はるかな思いを馳せた。

慰霊祭は毎年、広島一中原爆死没者遺族会と、母校、同窓会の共催で開かれている。

(平成28年11月1日～平成30年10月31日の間の死没者で過去掲載されていない方々、敬称略)

松井	宮原	香川	信濃	辻村	藤島	樂本	硖谷	長松	横町	吉本	川端	長谷川	重松	戎野	平谷	山根	出雲	佐藤	藤田	赤木	筒井	若宮	芋岡	大久保
井	為	清	竜	稔	輝	和	幸	生	幸	盛	康	頼	吉	好	利	節	久	妙	隆	博	昭	洋	巧	成
泉	海	雄	雄	美	美	昭	望	典	雄	重	洋	彦	春	子	之	江	詞	美	志	信	夫	一	三	記
(昭36年)	(昭36年)	(昭36年通)	(昭37年)	(昭37年)	(昭37年)	(昭37年)	(昭37年定)	(昭37年定)	(昭37年定)	(昭37年定)	(昭38年)	(昭38年)	(昭38年定)	(昭39年)	(昭39年定)	(昭40年)	(昭40年通)	(昭41年)	(昭41年定)	(昭42年)	(昭42年)	(昭44年)	(昭44年)	

松井	宮原	香川	信濃	辻村	藤島	樂本	硯谷	長松	横町	吉本	川端	長谷川	重松	戎野	平谷	山根	出雲	佐藤	赤木	筒井	若宮	芋岡	大久保	松本	岡原	小畑	倉田	福原	野崎	浜井	富士	宇吹	由井	菅田	鈴木	藤本	山本	坂井	中尾	宝田			
井	為	清	竜	輝	和	幸	幸	生	幸	盛	康	頼	彦	吉	好	利	節	久	妙	志	信	昭	夫	巧	成	明	成	誠	明	明	三津	みどり	明	子	安	子	進	之	弘	洋	慈	英	則
泉	三	海	雄	稔	美	昭	望	典	雄	重	洋	彦	春	子	之	江	詞	美	志	信	夫	一	三	記	明	子	誠	明	明	明	三津	みどり	明	子	進	之	弘	洋	慈	英	則		
(昭和36年)	(昭和36年)	(昭和36年通)	(昭和37年)	(昭和37年)	(昭和37年)	(昭和37年)	(昭和37年)	(昭和37年)	(昭和37年)	(昭和37年)	(昭和38年)	(昭和38年)	(昭和38年)	(昭和39年)	(昭和39年)	(昭和39年)	(昭和40年)	(昭和40年)	(昭和41年)	(昭和41年)	(昭和42年)	(昭和42年)	(昭和42年)	(昭和44年)	(昭和44年)	(昭和46年)	(昭和46年)	(昭和46年)	(昭和48年)	(昭和49年)	(昭和50年)	(昭和52年)	(昭和54年)	(昭和55年)	(昭和57年)	(昭和57年)	(昭和57年)	(昭和58年)	(昭和61年)	(平1年)			

表紙絵や家族写真

同窓会館で
鈴木三重吉展

同窓会館入り口スペースを会場に、卒業生の足跡を紹介する展示イベントを開催して、今回で3回目を迎えました。今回紹介する卒業生は、作家鈴木三重吉さん（明治34年卒）です。（以下、敬称略）



「赤い鳥」表紙絵などが並ぶ鈴木三重吉展

昨年卒業生から「赤い鳥」全196冊の復刻本が寄贈されて、折しも平成30年は、三重吉

が児童のための童謡・童話雑誌「赤い鳥」を創刊して100年の節目ということから、展示が決まりました。

三重吉は、大学在学中に静養していた能美島で書いた短編「千鳥」を夏目漱石に絶賛され、作家としてデビューしました。

その後、娘が誕生し、我が子に読ませたい良い読み物が世間

にないことから、子どもたちに「質の良い童話や童謡を与えたい」との思いで「赤い鳥」を創刊したとされています。長

女ずさんの回想録ではとても怖い父であったと書かれていま

すが、展示ケースの家族の写真はやさしいお父さんに見えます

ね。正面のきりりとした肖像写真は、さすがさんが国泰寺高校に

来られた時の新聞記事や著書と一緒に図書室に飾られていたもの

です。また、一中時代の写真とともに、在校中に「あほう鳩」という童話を雑誌に投稿してい

たというエピソードも今回紹介しています。

明治以来の教育的なお伽噺から新しい創作童話や新童謡を生み出し、その後の児童文化の礎を築いたと言われる「赤い鳥」

ですが、今の高校生は名前も知らないだろうと思いつつながら訪ねた図書室で「国泰寺赤い鳥創作童話・童詩コンテスト」の募集

チラシを見たときはびっくりしました。なんとチラシには「児童文学の巨星、鈴木三重吉氏さあ!!大先輩に近づこう」と書かれていたのです。今年で13回目を迎えるコンテスト。未来の

三重吉よ、待ってるよ!

今回の目玉は、何といつても展示ケース左側の「赤い鳥」表

紙絵ギャラリーです。三重吉の絶大な信頼を受けた画家清水良

雄を中心に描かれたこの芸術的でロマンあふれる表紙絵は、雑誌のイメージを大きく高めたもの

のと思っています。この色彩豊かな絵柄は、インスタ映え最高です!

(笑) ぜひ、見に来て、写して帰ってください。

日本画作品を
同窓会に寄贈

昭和37年卒竹永克彦さん

昭和37年卒竹永克彦さんから「層雲峡の秋」の日本画を、同窓会に寄贈して頂いた。

同窓会館落成の記念として寄贈頂いた「紅潤」は赤を基調とした大樹を画いた100号の大

作であり、この度の絵は13号で、



寄贈された「層雲峡の秋」

県内には、三重吉に関する碑が6つあります。相生橋東詰の文学碑は有名ですが、今新築中のエディオンに生誕のレリーフ

があったのはご存知でしたか? 県内の碑についても広島市立中央図書館(今回の展示を共催)

作成のマップを展示していますので、機会があれば巡ってみてください。

資料保存委員会副委員長 昭和48年卒 藤井寿美枝

層雲峡から流れ落ちる二双の滝があたかも母校と同窓会の発展を祈念しているかの如く、鮮やかな色で山間の紅葉を表現したものであるとのこと。

いずれも華やかな色合いを好

いずれも華やかな色合いを好

いずれも華やかな色合いを好

編集後記

山登りをしていると、終盤で胸突き八丁に差しかかる。前方のピークを見上げ、へたばりそうな心にかツを入れる。頑張つてそこを登り切ったと思えば、目の前にそびえるのは、もう一つの…。

同窓会組織は、山に例えられるかもしれない。若い世代がすそ野に広がり、頂上に近づくにつれて、年配層が増える。私にとって、昭和20年代に卒業され

み、さわさわと微風を感じるこ

とができる動きのある絵となっ

ているところが特徴だろうと考

える。

奥田元宋画伯の門下生である

竹永氏からこっそり伺ったこと

は、奥田元宋画伯の筆は最低で

も1本10万円以上するとの事

で、竹永氏の筆や岩絵具も「推

して知るべし」だ。

今年2月、二木会講師を務め

られたおり、筆や岩絵具を惜し

げもなく使わせてくださり、参

加者は日本画に直接触れる良い

経験となった事と思う。

同窓会館内に展示しているの

で、是非ご来館頂き、鑑賞して

頂きたい。

同窓会事務局 久保木敬子

た先輩方は、お手本にすべきレ

ジエンド的存在と言える。

そんな中、95歳にして、30年

間も二木会に出席し続ける松井

義武さん(昭和16年卒)は別格。

唯一の戦前卒業生として、黙々と質実剛健を实践されている印象だ。

人となりや後輩へのメッセージは、一面の記事で紹介した通り。上には上が…の思いしきりめざすピークはまだまだ遠い。

松井さん、さらなるご長寿を。

(大石)